



明けましておめでとーん！おめでとうございます



# しあわせ実感 緑の健康文化都市 始動2003



秋田市長 佐竹 敬久

## 県内各都市の住民の目を 秋田市に引きつけたい。

皆さま、それぞれに想いを抱きながら、新しい年をお迎えのことと存じます。

激動の時代ではありますが、本年がおだやかな中にも明日の希望につながる躍動の年になりますよう念じております。

さて、タイトルの「しあわせ実感 緑の健康文化都市」。これは現在策定中の新しい秋田市総合計画の理念を一言で表したものです。あえて解説がいらぬほど、単純明快、文字どおりの意味です。

それでは、この理念で築きあげていく秋田市の将来像やそのベースとなる主要な事業、市政の課題などをいくつかご紹介しましょう。

### 県都としての 高次集積都市の実現 都市として結晶するもの

秋田県内においても、各都市間高速道路ネットワークがほぼ

整備されつつあります。また、平成九年の秋田新幹線開通に加え、物流拠点やフェリー港としての秋田港、ソウルとの国際定期便が就航した秋田空港など、ここ数年の交通基盤の拡充には目を見張るものがあるように思えます。私は、このことを大きなステップとして、秋田市の将来のまちづくりや地域おこしを考えています。

例えば、商業やサービス業においてですが、大曲市や私の故郷角館町の住民は、盛岡市に買い物や観劇に出かけることが多いようです。また、大館市民は弘前市に、横手市民は秋田自動車道を仙台市方向に足を延ばすことが多いとも言われています。

要因の一つは、高速道のネットワークがこれまで県内において未整備で、かつ岩手県や青森県の都市と先につながったことにあります。さらには、いささか述べにくいことですが、これまでの行政の認識不足や商業、サービス業関係者などの努力不足と、それに起因する都市の魅

力の欠如があったと思います。このようなことから、県内各都市の住民の目が、まず先に隣県の主要都市に引きつけられ、秋田市を向いていかなかったということが考えられます。「県都としての高次集積都市の実現」というのは、秋田市にその目を引きつけようとする取り組みのことなのです。

そのためには、高速道のインターチェンジ周辺や、それにつながる既存市街地などをポイントに、全県域を集客対象とする商業集積などをはかるべきではないかと考えています。さらには、芸術文化や学術、医療、福祉、工業、観光サービス、都市緑化などの広範な分野においての集積についても同様です。

これは、都市の魅力の源泉を高い機能の集積に求め、結晶させるものであり、単なる旧市街のリニューアルとは違います。すぐに実現するような構想ではありませんが、この先、夢を大きくふくらませていきたいと思えます。

### コールセンター チャレンジオフィスあきた 地域EX

#### IT社会の申し子たち

では次に、新世紀らしいホットな話題に移りましょう。

昨年末でしたが、県市一体の精力的な取り組みが実を結び、国内の有力な数都市の中で秋田市の優位性が高く評価され、株式会社プレステージ・インターナショナルの誘致が決定いたしました。

これは、新屋の西部工業団地に、高速通信回線を利用し電話や電子メールによる顧客サポートサービスを行う、いわゆるコールセンターが進出するものです。

本年十月に操業開始予定であり、初年度に二百名、フル稼働する五年後までには合計五百名の新規雇用を見込んでいます。

相次ぐ企業の倒産や撤退など、一段と厳しさを増しつつある経済・雇用情勢の中で、久々にインパクトがあり、大きな波及効果が期待できる企業の進出です。

一方、土崎の旧秋田市ガス局庁舎を高速通信インフラの整備された創業支援施設として改修した、チャレンジオフィスあき